SONIC CITY
SONIC CITY
2021 SERIES
7:00pm, July 2nd (FRI),
2021 at Sonic City
126
ソニックシティ 2021 シリーズ　第 126 回さいたま定期演奏会
2021年 7月2日(金) 午後7時開演／ソニックシティ　大ホール

program

第 126 回さいたま定期演奏会　日本フィルハーモニー交響楽団

ベートーヴェン

交響曲第6番《田園》ヘ長調 op.68

Ludwig van BEETHOVEN: Symphony No.6 “Pastorale” in F-major, op.68

（約37分）

～休憩～

ベートーヴェン

交響曲第5番《運命》ハ短調 op.67

Ludwig van BEETHOVEN: Symphony No.5 in c-minor, op.67

（約32分）

指揮：**広上淳一**
Conductor: HIROKAMI Junichi

コンサートマスター：**木野雅之**［日本フィル・ソロ・コンサートマスター］
Concertmaster: KINO Masayuki, JPO Solo Concertmaster

ソロ・チェロ：**菊地知也**［日本フィル・ソロ・チェロ］
Solo Violoncello: KIKUCHI Tomoya, JPO Solo Violoncello

主催
公益財団法人埼玉県産業文化センター／さいたま市
公益財団法人日本フィルハーモニー交響楽団

後援
埼玉県／埼玉県教育委員会／さいたま市教育委員会／埼玉県吹奏楽連盟

特別協力
盆栽 清香園

【ソニックシティホール棟改修について】
ソニックシティホール棟は、令和３年（2021 年）７月３日から令和５年（2023 年）２月３日（予定）まで大規模改修のため休館いたします。そのため次回､第 127 回定期演奏会より埼玉会館大ホールにて開催いたします。詳細情報については、ソニックシティ HP をご覧ください。

【アンケートのお願い】
今後のソニックシティ主催公演の参考のため、アンケートへのご協力をお願いいたします。アンケートにお答えいただいた方の中から抽選で３名様に、出演者のサイン色紙をお送りいたします。

ゆったりシートで！クラシック♪
ハッピー♡ディスタンス公演
～お客様同士の距離を十分に確保し、安全・安心なコンサートを目指します～

指　揮：広上淳一

©Masaaki Tomitori

東京生まれ。東京音楽大学指揮科に学ぶ。1984年、26歳で「第1回キリル・コンドラシン国際青年指揮者コンクール」に優勝。以来、フランス国立管、ベルリン放送響、コンセルトヘボウ管、モントリオール響、イスラエル・フィル、ロンドン響、ウィーン響、ロサンゼルス・フィルなどメジャー・オーケストラへの客演を展開。これまでノールショピング響、リンブルク響、ロイヤル・リヴァプール・フィルのポストを歴任、このうちノールショピング響とは94年に来日公演を実現、さらに米国ではコロンバス響音楽監督を務めヨーヨー・マ、ミドリをはじめ素晴らしいソリストたちとともに数々の名演を残した。

近年では、ライプツィヒ・ゲヴァントハウス管、ミラノ・ジュゼッペ・ヴェルディ響、スイス・イタリア管、モンテカルロ・フィル、バルセロナ響、ビルバオ響、ポーランド国立放送響、スロヴェニア・フィル、サンクトペテルブルク・フィル、チャイコフスキー・シンフォニー・オーケストラ、ラトビア国立響、ボルティモア響、シンシナティ響、ヴァンクーヴァー響、サンパウロ響、ニュージーランド響等へ客演。国内では全国各地のオーケストラはもとより、サイトウ・キネン・オーケストラ、水戸室内管弦楽団にもたびたび招かれ絶賛を博している。

オペラ指揮の分野でもシドニー歌劇場デビューにおけるヴェルディ《仮面舞踏会》、《リゴレット》が高く評価されたのを皮切りに、グルック、モーツァルトからプッチーニ、さらにオスバルト・ゴリホフ《アイナダマール》の日本初演まで幅広いレパートリーで数々のプロダクションを成功に導いている。

2008年4月より京都市交響楽団常任指揮者を経て2014年4月より常任指揮者兼ミュージック・アドヴァイザー。2015年には同団とともにサントリー音楽賞を受賞。2017年4月からは札幌交響楽団友情客演指揮者も務める。常任指揮者として13シーズン目の2020年4月より京都市交響楽団第13代常任指揮者兼芸術顧問に就任。2020年4月より京都コンサートホール館長も務める。また、東京音楽大学指揮科教授として教育活動にも情熱を注いでいる。

ベートーヴェン：交響曲第6番《田園》ヘ長調／交響曲第5番《運命》ハ短調

別ページの「コラム」でも述べるが、ベートーヴェンの『交響曲第5番』『同第6番《田園》』は、1808年の末に同じ演奏会で初演されている。本格的に作曲がおこなわれたのも、1807年から08年にかけてと同時期。献呈先も、両曲ともにベートーヴェンの支援者だったラズモフスキー伯爵とロプコヴィッツ侯爵となっている。つまり、この2つの交響曲はベートーヴェンにとってみれば、双子のような存在だったのだろう。

そのように考えると、両者には他にも様々な共通点がある。例えば楽器編成。『第5番』にあって『第6番』にないものといえば、コントラファゴットとトロンボーン1本分だが、どちらにもピッコロや、トロンボーンが参加することからも分かるように、当時のオーケストラの通常的な編成では不可能な音量や音色が求められた。あるいは快速テンポに基づく中間楽章…『第5番』では第3楽章、『第6番』では第4楽章…では、重量級の楽器であるコントラバスに、きわめて早いテンポのパッセージが当てがわれている。（ちなみにベートーヴェンは、「低弦セクション」ということでチェロとコントラバスを1つのパートに記す習慣をやめ、両パートを異なるパートで記すことをおこなったパイオニア的存在でもある。）

さらに共通の要素として、鳥の囀りをはじめとする自然描写を採り入れながらも、それを単なる自然の音の模倣にとどめず、内的な世界観と結びつけた点も挙げられよう。これは《田園》というタイトルが付けられ、各楽章にも田園生活にまつわる標題が与えられた『交響曲第6番』だけにとどまらない。『交響曲第5番』の第2楽章の中間部でも、『第6番』の第2楽章の終結部と同じく、鳥の鳴き声を彷彿させる場面が登場する。

そして何よりも「暗から明へ」という、ベートーヴェンの代名詞のようになった曲全体の構造。それこそ、「運命」という呼び名を後世から与えられた…ということはベートーヴェンがこのようなタイトルを付けたわけでないのだが…『交響曲第5番』はもちろん、『交響曲第6番』の第3楽章以降にも、そうした展開を顕著に聴きとれる。しかもこのような転換を劇的に描くため、伝統的にばらばらに演奏されることの多かった楽章を、続けて演奏するよう、ベートーヴェン直々に指定がなされている。（『第5番』では第3～4楽章、『第6番』では第3～5楽章がそれにあたる。）

たしかに「交響曲」は、元々オペラをはじめとする劇の始まりに際し、開幕ベルがわり、あるいは景気付けのために演奏される序曲から生まれた。それが徐々に演奏会でも取り上げられるようになるのだが、そこにおいても第1楽章は演奏会の幕開けに、最終楽章（フィナーレ）は演奏会の終わり（フィナーレ）に上演される場合が多かった。そんな軽量級のジャンルだった交響曲を、西洋音楽のメインジャンルに仕立て上げたのが ベートーヴェンだった。そしてその代表作こそが、この双子の交響曲に他ならなかった。

曲目解説：小宮正安

新機軸の演奏会から考える
オーケストラの歴史⑥

1871年にボンでおこなわれたベートーヴェン・フェスティヴァルの様子。オーケストラは現在と同じく舞台の上に配置されるようになったが、一番目立っているのは独唱者と合唱という声楽陣である。

ベートーヴェンの『交響曲第5番』『同第6番』が初演されたのは、1808年12月22日のこと。会場は、ウィーンの私営劇場として数年前にオープンしたばかりの、アン・デア・ウィーン劇場だった。

この演奏会、エピソードが満載だ。『ピアノ協奏曲第4番』や『合唱幻想曲』の初演、さらに他の作品の演奏も加わったため、演奏会そのものが伸びに伸び、オーケストラにとっても手掛けたことのない曲ばかりが続いてキャパシティオーバー。また真冬の催し物であるところにもってきて、当時はナポレオン率いるフランス軍相手の戦争の最中で充分な燃料がなかったことから、会場は極寒の状態となり、全てが大失敗に終わる…。

逆に言えば、戦争の間を縫って催された演奏会だったため、ベートーヴェン自身も張り切って、新曲を詰め込みすぎた。とりわけその様を物語るのが、演奏会の締めくくりにあたって急遽作られた『合唱幻想曲』。『第九』の先駆けともいえる、オーケストラと声楽のための作品で、さらには独奏ピアノまで加わる…。

面白いのは、当時のウィーンでは劇場で演奏会が催される場合、通常の歌劇や芝居のごとく、オーケストラは舞台手前の、いわばオーケストラピットの位置に陣取る場合が多かった。逆に声楽家（合唱団も含む）や独奏者は、舞台の上で演奏をおこない、観客から注目を浴びるものと相場が決まっていた。

つまり、現在『合唱幻想曲』や『第九』が演奏される時とは、舞台上の配置がまったく異なっていたということ。この時ベートーヴェンは、独奏ピアノを演奏しつつ全体の指揮もとったわけだが、ただでさえ耳の病が進行していたところに持ってきて、この配置では演奏者をコントロールしようもなかったのだろう。逆に言えばそうした失敗の積み重ねの末に、今ではお馴染みのオーケストラの配置が決まってゆくわけだが、特に声楽入りの作品でそれが確定したのは、じつに20世紀もかなり経ってからの話なのだ。

コロナ禍の中で、舞台上のオーケストラの配置についても、様々な試みがおこなわれている。だがそれも長い目で見れば、昔から続くオーケストラの形態に関する試行錯誤の延長線上に位置するものといえるかもしれない。それほどまでに、オーケストラは…よく考えられているような…古色蒼然とは無縁の、今なお変化の可能性をきわめて内在させた存在であり続けている。

文章：小宮正安

盆栽清香園より第 126 回定期演奏会に寄せて

この度は第 126 回の定期演奏会の開催を心よりお慶び申し上げます。
今回左側に柘榴（ざくろ）の盆栽、右側に赤松の盆栽を展示させていただきました。
こちらの柘榴の盆栽は「錦袍榴（きんぽうりゅう）」という特別な樹種で、一本の木で緑や赤、黄色や緑に赤筋が入っている葉など、様々な色がみられるのが特徴でございます。その上、花に至っても、赤、白、絞りなど彩り豊かな華麗さがあります。葉は柳のような葉もあれば、丸みを帯びた葉もあり、非常に変化に富んだ樹種でございます。

右側の赤松は、文人木（ぶんじんぎ）の樹形に仕立てております。文人木とは、江戸時代の文人墨客が好んだ樹形で、自然な立ち上がりの華奢な幹の動きが見所となっています。

王安石の詩に「紅一点」という言葉があり、草むらの中に柘榴のお花がひと際目立つように見える姿を表現しております。オーケストラを全体から見渡した後に覗く華麗な姿との一体感をどうぞご堪能下さい。

清香園　山田寅幸

清香園 history

江戸末期、庶民の文化としての園芸が花開いた時代、初代庄之助が現在の台東区根岸のあたりに創業いたしました。
清香園の屋号の由来は、梅の盆栽を多く手がけていたことから「清く香る園」といたしました。
二代目初五郎は、海鉢で竹の盆栽を作ることを得意とし、三代目釜次郎は石付き盆栽を得意としました。この釜次郎の代で太平洋戦争の戦災を逃れて大宮の盆栽村に移住。現在は、四代目の登美男が園主で、盆栽種全般を扱っております。さいたま市北区の盆栽町（通称盆栽村）には毎日、海外からのお客様が訪れています。

お客様に一番身近な「窓口」としての専門店を目指して

盆栽園という枠組みに捉われず、
お客様に寄り添う専門店を実現していきます。

あなたの老後は本当に大丈夫ですか？

講演者：高橋 誠一

賃貸活用や個人年金づくりのコンサルティングなどを手がけ、数多くのお金持ち大家さんを輩出しています。

- 三光ソフラングループ 代表
- 全国賃貸管理ビジネス協会 会長
- アパマンショップネットワーク 相談役
- 著書「お金持ち大家さん」シリーズの著者

暮らしに不安を抱えるあなたに贈る

「お金持ち大家さん」になるための アパート・マンション購入セミナー

数多くの「お金持ち大家さん」を輩出してきた高橋誠一が築き上げた、リアルなノウハウを全てお話しします！資産運用の仕組みや、安定した失敗しない賃貸住宅投資のコツを実例を交えてわかりやすく説明いたします。

延べ参加者数 **4,000名 突破**

【開催日時】 **令和3年9月19日（日）**
14：00～15：45（13：30受付開始）

【開催場所】 全国賃貸管理ビジネス協会 新セミナールーム

【定　　員】 **100名** セミナー終了後に個別相談申し込みを受付けます

【講演内容】「お金持ち大家さんになる為の方法」
三光ソフラングループ代表　代表取締役 高橋 誠一
・新築ワンルームマンションが**ダメ**な理由
・してはいけない**繰上返済**と**フルローン**

申込方法／事前申込制　下記の方法でお申込ください。お申込いただいた方に「受講票」を郵送いたします。

TEL.03-6895-5535 9：00～18：00（土・日も受付ます）

ネットからもお申込いただけます http://www.kanemochi-ooyasan.com/　お金持ち大家さん　検索

相続問題や空き家・空き地 でお困りの方へ

三光ソフランの空家空地管理サービス

三光ソフラン株式会社

お気軽にお問い合わせください

0120-456-290

あきやまもるくん　検索